

# 社会政策学会 *Newsletter*

学会本部 東京大学大学院人文社会系研究科 武川正吾 気付 URL <http://www.soc.nii.ac.jp/sssp/>  
 Tel:03-5841-3876 Fax:03-5841-3876 E-mail:sssp2006@hotmail.co.jp  
 編集・発行 武川正吾(代表幹事) 所 道彦(ニューズレター担当幹事)  
 事務センター 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-7-2 大橋ビル (株)ワールドプランニング  
 Tel:03-3431-3715 Fax:03-3431-3325 E-mail:world@med.email.ne.jp

## < 目次 >

1. 第 115 回大会プログラム
2. 臨時総会のお知らせ
3. 第 115 回大会事務局よりお知らせ
4. 第 116 回大会報告募集について
5. 第 114 回大会開催校報告
6. 学会誌編集委員会からお願い
7. メール転送担当者からお願い
8. 幹事会報告
9. 承認された新入会員

## 1. 第 115 回大会プログラム

第 1 日 10 月 13 日(土)

9:30~11:30 書評分科会、テーマ別分科会、自由論題

### < 書評分科会・第 1 生産・労働・キャリア >

【3号館 101 教室】

座 長: 猿田正機(中京大学)

1. 野原 光『現代の分業と標準化』  
法律文化社、2005 年  
富田義典(佐賀大学)
2. 辻 勝次編著『キャリアの社会学』  
ミネルヴァ書房、2007 年  
平沼 高(明治大学)
3. 神尾京子『家内労働の世界』  
学習の友社、2007 年  
高野 剛(奈良産業大学)

### < 書評分科会・第 2 貧困と貧困対策 - 現在と過去 >

【3号館102教室】

座 長: 大西秀典(尾道大学)

1. 田中拓道『貧困と共和国 - 社会的連帯の誕生』  
人文書院、2006 年  
樋口明彦(法政大学)
2. 富江直子『救貧のなかの日本近代 - 生存の義務』  
ミネルヴァ書房、2007 年  
菅沼 隆(立教大学)

3. 室住眞麻子『日本の貧困 - 家計とジェンダーからの考察』  
法律文化社、2006 年  
田宮遊子(神戸学院大学)

### < テーマ別分科会・第 1 > 【3号館 201 教室】

都市の高齢化と高齢者(社会保障部会)  
座 長: 川上昌子(淑徳大学)  
コーディネーター: 浜岡政好(佛教大学)

1. 「泉北ニュータウンにおける孤独死」  
新井康友(羽衣国際大学)
2. 「都市部「非持ち家層」に集中する高齢期の生活問題  
- 全日本民医連「全国高齢者生活実態調査」から」  
唐鎌直義(専修大学)
3. 「大都市におけるひとり暮らし高齢者の生活問題  
- 東京都港区と横浜市鶴見区での調査結果から」  
河合克義(明治学院大学)

### < テーマ別分科会・第 2 > 【3号館 202 教室】

東・東南アジアの家族と社会的ネットワーク  
座 長: 上村泰裕(法政大学)  
コーディネーター: 埋橋孝文(同志社大学)

1. 「高齢者のケアをめぐる社会的ネットワーク - アジア6社会の比較」  
落合恵美子(京都大学)
2. 「韓国における高齢者の生活」 小林和美(大阪教育大学)
3. 「シンガポールにおける高齢者の経済的扶養と介護」  
大和礼子(関西大学)

### < 自由論題・第 1 労使関係 > 【21号館 301 教室】

座 長: 平地一郎(佐賀大学)

1. 「若年非正規労働者による労働運動の特徴 - コミュニティユニオン運動との連携に着目して」  
橋口昌治(立命館大学大学院生)
2. 「カリフォルニア州におけるホームヘルパー組織化とその意義」  
田中博一(滋賀文化短期大学)
3. 「企業組織再編と労働組合 - 企業別労働組合による企業再生を中心に」  
坂 幸夫(富山大学)

### < 自由論題・第 2 労働経済 > 【21号館 302 教室】

座 長: 三山雅子(同志社大学)

1. 「中小企業における解雇と経営者、労使関係」  
野田知彦(大阪府立大学)

2. 「賃金、正規・非正規雇用と失業」  
福島淑彦(早稲田大学)
3. 「造船業における雇用構成の規定要因」  
藤井浩明(名古屋市立大学大学院生)

11:30~12:50 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

12:50~14:50 テーマ別分科会、自由論題

< テーマ別分科会・第3 > 【3号館 201 教室】

社会的困難を抱える人々と社会政策 - 日本における社会的包摂の可能性

座長・コーディネーター：福原宏幸(大阪市立大学)

1. 「日本における若者問題と社会的排除 - 「適正な仕事」「活性化」「多面的活動」をめぐる」  
樋口明彦(法政大学)
2. 「わが国の生活保護改革論議とワークフェア」  
布川日佐史(静岡大学)
3. 「日本におけるホームレスと(低所得者)住宅政策」  
阪東美智子(国立保健医療科学院研究員)

< テーマ別分科会・第4 > 【3号館 202 教室】

製造業における業務請負業の展開と請負労働者  
(産業労働部会)

座長：鎌田耕一(東洋大学)  
コーディネーター：白井邦彦(青山学院大学)

1. 「製造業務請負業の事業構造とその変化」  
木村琢磨(大阪経済大学)
2. 「競争戦略の新展開と請負労働者」  
白井邦彦(青山学院大学)

< 自由論題・第3 労務管理・労働史 > 【21号館 301 教室】

座長：斉藤義博(東北学院大学)

1. 「能力主義管理以降の諸企業の辿った径路について」  
玉井芳郎(同志社大学)
2. 「農山村における公共事業と農民就業行動の変化  
- 1965年~1985年島根県弥栄村を事例として -」  
高木大吾(筑波大学大学院生)
3. 「企業福祉の動向と課題」 姜 英淑(立正大学)

< 自由論題・第4 介護問題 > 【3号館 101 教室】

座長：三富紀敬(静岡大学)

1. 「介護サービス市場の管理と調整」  
佐藤卓利(立命館大学)
2. 「介護現場の「人手不足」と外国人労働者受け入れ問題への視座」  
井口克郎(金沢大学大学院生)
3. 「介護職のバーンアウトの諸要因分析と対処策」  
永井隆雄(九州大学大学院生)  
小野宗利(九州大学大学院生)

< 自由論題・第5 医療制度 > 【3号館 102 教室】

座長：塚原康博(明治大学)

1. 「日本と韓国における医療保険制度の比較分析」  
金 明中(日本経済研究センター研究統括部研究員)
2. 「医療保険制度における年齢区分」  
佐々木貴雄(東京福祉大学)
3. 「日本の病院の発展史と2重権限関係」  
山下智佳(明治大学大学院生)

15:00~17:00 テーマ別分科会、自由論題

< テーマ別分科会・第5 > 【3号館 201 教室】

規制緩和・グローバル化の進行と労使関係・労働組合  
(労働組合部会)

座長：白井邦彦(青山学院大学)  
コーディネーター：兵頭淳史(専修大学)

1. 「労働ビッグバンを問う」  
高梨 昌(信州大学名誉教授)
2. 「グローバル化下の労働組合」  
平澤克彦(日本大学)

< 自由論題・第6 韓国の社会問題 > 【21号館 301 教室】

座長：山本郁郎(金城学院大学)

1. 「韓国の「国民基礎生活保障制度」をめぐる新たな改革動向とその背景」  
金 碩浩(日本福祉大学大学院生)
2. 「二極化する韓国社会」  
片岡 誠(県立広島大学大学院生)
3. 「韓国の若者問題と家族」  
金 秀映(韓国中央大学社会科学研究所専任研究員)

< 自由論題・第7 社会保障 > 【3号館 202 教室】

座長：居神 浩(神戸国際大学)

1. 「公的年金の未加入と保険料免除制度の効果」  
阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「世帯類型からみた生活保護率の地域差の検証」  
田中聡一郎(慶應義塾大学大学院生)  
四方理人(慶應義塾大学経商連携COEプログラム研究員)
3. 「福祉ミックスと社会的な排除の考察」  
黒沼精一(佛教大学大学院生)

< 自由論題・第8 地域社会・福祉国家 >

【3号館 101 教室】

座長：森 詩恵(大阪経済大学)

1. 「地域福祉におけるNPO/NGO活動のあり方に関する日韓比較研究」  
崔 銀珠(同志社大学大学院生)
2. 「地域生活力を醸成する要因 - 草加市の実践 -」  
鈴木奈穂美(愛国学園大学)  
堀越栄子(日本女子大学)  
天野晴子(日本女子大学)

3. 「日本の保守勢力における福祉国家の諸潮流 - 1950年代を中心として」  
田名部康範(大阪市立大学大学院研究生)

<自由論題・第9 障害者政策> 【3号館 102 教室】  
座 長：垣田裕介(大分大学)

1. 「精神障害者への就労支援と障害者自立支援法 - 就労支援事業移行の実態調査を通して」  
山村りつ(同志社大学大学院生)
2. 「障害者雇用・就業政策の中長期的課題」  
岩田克彦(職業能力開発総合大学校)

17:10~17:40 臨時総会 【3号館 301 教室】

18:00~20:00 懇親会 【3号館 地下食堂】

第2日 10月14日(日)

共通論題

【3号館 301 教室】

社会保障改革の政治経済学  
座 長：玉井金五(大阪市立大学)  
西村万里子(明治学院大学)

9:30~12:00

報告1

「小泉・安倍政権の医療改革 - 新自由主義的改革の登場と挫折」  
二木 立(日本福祉大学)

## 2. 臨時総会のお知らせ

以下の要領で第115回大会開催中に臨時総会を開催いたしますので、ご出席をお願いいたします。

日 時 2007年10月13日(土)  
17時10分~17時40分  
場 所 龍谷大学 3号館 301 教室

報告2

「社会保障改革と高齢者・障害者の権利保障 - 改正介護保険法と障害者自立支援法の問題を中心に」  
伊藤周平(鹿児島大学)

報告3

「年金騒動の政治経済学 - 政争の具としての年金論争トピックと真の改善を待つ年金問題点との乖離」  
権丈善一(慶應義塾大学)

12:00~13:20 昼休み(幹事会、各種委員会、専門部会)

13:20~14:10

報告4

「脱福祉国家の政治 - 縮減から再編へ」  
新川敏光(京都大学)

14:30~16:30

総括討論

\*\*\*\*\*

<プログラム訂正のお知らせ>

企画委員会が当初『自由論題・第4 介護問題』の座長をお願いしておりました会員が、本務校業務のため急遽辞退を余儀なくされたため、先日送付しましたプログラムの印刷に間に合わず、座長名を空欄(未定)といたしました。その後、三富紀敬(静岡大学)会員にお引き受け頂きましたので、お知らせします。

議 題

1. 議長選出
2. 役員選挙結果
3. 広報委員会の設置
4. 社会政策学会賞表彰規定の改正
5. 編集委員会報告
6. その他

## 3. 第115大会事務局よりお知らせ

京都市内のホテルは、観光シーズンにあたるため、全般的に予約しにくい状況です。ホテル予約が必要な方は、お急ぎください。なお、京都市内なら、河原町通(京阪電車)、烏丸通(京都市営地下鉄)に近接しているか、京都駅近くのホテルであれば、会場(龍谷大学深草学舎)へのアクセスは良好です。その他のホテルについては、各自、会場へのアクセスをお確かめください。(その際、「龍谷大学深草(ふかくさ)学舎」と指示してください。本学は京都駅近くに別学舎「大宮学舎」を有しておりますので、お間違いのないように。) 京都府外なら滋

賀県大津市内(JR 大津~京都、乗車時間10分)、大阪市内(JR 大阪~京都駅經由稲荷駅、または京阪電車淀屋橋~深草駅まで、それぞれの乗車時間は45分程度)のホテルもご考慮ください。

なお、観光シーズン中の土曜のホテル予約には、恒常的に直前のキャンセルが発生しているようです。キャンセル手数料との関係で宿泊10日前くらいのキャンセル例が多いと聞き及んでいます。確実ではありませんが、お困りの時にはお試しください。

## 4 . 第 116 回大会の報告募集について

### 1) 第 116 回大会の共通論題について

第 116 回大会の共通論題は、下記の方々に、下記の内容で、ご報告をお願いし、ご承諾を頂きました。大会までに、春季大会企画委員会として数回の報告準備会を開催する予定であり、報告内容の洗練化をはかって参ります。下記は順不同です。

- 白井邦彦 報告内容 「OECD の解雇規制見直し論」  
 呉 学殊 報告内容 「韓国労働政策の動向と非正規雇用」  
 五十嵐仁 報告内容 「最近の労働政策決定プロセスの構造変化」

森岡孝二 報告内容 「労働現場の状況を、株主価値重視の企業経営への変化の動向と合わせて、包括的に問題提起」

2) 第 116 回大会のテーマ別分科会・自由論題の募集について  
 募集の文章や書式は、10月下旬ころに、学会ホームページにアップする予定です。応募の締め切りは、2008年1月10日の予定です。

春季大会企画委員会 遠藤公嗣

## 5 . 第 114 回大会開催校報告

### 社会政策学会第 114 回大会開催校報告 [簡略版]

社会政策学会第 114 回大会は、2007 年 5 月 19 日(土)・20 日(日)の両日、東京大学本郷キャンパスで開催された。参加者数は 427 人で、過去最高の第 112 回大会(2006 年立教大学)とほぼ同じであった。

今回の大会は、2006 年 10 月に定められた「大会会計指針」(<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sssp/kaikeishishin.pdf>)の最初の適用例であり、以下、その運用面での評価も含めて、準備過程から事後処理までの活動について簡略に報告する。

なお、報告の完全版は学会ホームページに掲載してあるほか(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/sssp/on114conf.html>)、以下にご連絡いただければ、添付ファイルあるいは印刷された状態で提供する。

〒113-0033 文京区本郷 7-3-1  
 東京大学大学院経済学研究科 小野塚知二宛  
 FAX: 03-5841-5521  
 e-mail: onozukat@e.u-tokyo.ac.jp.

### 1. 準備過程

2005 年春頃から打ち合わせを進め、2006 年 5 月に第 114 回大会実行委員会(委員長: 森建資、事務局長: 小野塚知二)が組織されてからは本格的に準備作業を開始した。以後大会直前までの間に 5 回の全体会合をもったほか、必要に応じて適宜打ち合わせやメールのやりとりを行い、情報共有と意思疎通をはかった。

確保しうる会場の状況も 1 年前から検討を始め、前年秋には教室の仮押さえをして、教室使用料の金額を確認した。また、幹事会・各種委員会の会合、準備作業、書籍展示販売、会員休憩室等に、演習室と共同研究室など合計 20 室を確保した(これらの使用は無料)。

「大会会計指針」の 1 (会場使用料等減免および補助金獲得)にしたがって、会場使用料免除の可能性を東京大学経済学研究科長に打診したところ、研究科長のご配慮により、東京大学経済学振興財団から会場使用料相当額の補助金を得られることとなった。

参加申込管理やプログラムの印刷・発送など大会開催業務の一部を委託する方向で、1 年前から東大生協と何度か折衝を続け、2007 年 1 月には委託費 511,000 円の見積を得て、収支の均衡する大会予算案を策定することが可能となった。この過程でも、大学生協学会支援センターの大会参加者管理システムは利用しない、大会受付等の要員はすべて実行委員会側から出す、参加管理は郵便振替の払込用紙のみで行い、出欠葉書は省略するなど、さまざまな支出節約策を採用した。

### 大会開催業務一部委託の見積 (東大生協 2007 年 1 月 16 日)

	(単位: 円)
プログラム印刷 (30 頁・1500 部)	142,000
実行委員会用封筒 (角 2・2000 枚)	28,000
振込用紙印刷 (1400 枚)	6,000
プログラム発送料 (クロネコメール便@80・1300 件)	104,000
プログラム発送作業 (@120・1300 件)	156,000
参加申し込み管理 (受付名簿・名札・領収書作成等@250・300 人)	75,000
<b>合 計</b>	<b>511,000</b>

2007 年 1 月 25 日の学会幹事会に、「大会会計指針」の 2 および 3 にしたがって大会開催校会計収支計画(後掲「社会政策学会第 114 回大会開催校会計決算書」の予算列の通り)を提示し、承認された。収支計画が承認されてから、実行委員会は東大生協との間に、大会開催業務一部委託に関する契約書、ならびに個人情報の取扱いに関する覚書を取り交わした。

大会実行委員会の独自の収入源として、大会プログラムへの広告掲載を募集することとし、最終的に 8 社の広告を掲載し、91,000 円の収入が得られた。締め切りを過ぎてから 3 社から掲載希望が寄せられたが、いずれも印刷・発送の都合から不可能なためお断りした。また、書籍の展示販売は、合計 10 社に許可を出した。

プログラムは、ほぼ従来通りの体裁で作成したが、大会のテーマカラーを定め、プログラム表紙、封筒、懇親会券等はできる限り浅葱ないし薄緑色で統一するようにした。3 月初旬に春季大会企画委員会より送付された最終原稿を入稿し、校正 1 回を経て、当初の予定通り 3 月 20 日に発送した。海外在住会員、および不達の連絡のあった会員にも適宜の方法で送付した。

事前の参加申込の締め切りを 4 月 28 日としたが、連休明けにも多くの申込があり、5 月 17 日までに 247 人の会員が参加費等を振り込んだ。事前申込者のリスト、領収書、名札等は、実行委員会との協議に基づき東大生協が作成した。

パワーポイントへの対応には、各教室の機器状況の調査から始まって、当日のありうるトラブルを防止するための方策まで、さまざまに苦心した。

東京での懇親会は「ご当地」の個性を出しにくいのが、担当の業者とも相談を重ねた結果、旬の上り鰹、穴子の天ぷら、それに、東京大学に保存されていた戦前の黒麹を用いて造った泡盛「御酒(うさき)」など、予算の許す範囲内で些かの特色を出すべく努力した。有償参加者数は 169 人におよんだため、食

べ物と飲み物は開始後に再三追加注文した。

大会会場から懇親会場(生協第二食堂)までの経路上に 10 枚ほどの案内板を設置したほか、懇親会開始 30 分ほど前から 7 人のスタッフを配置して、道案内に当たらせてた。

## 2. 直前の準備

「行列のできない受付」、「迷わずに歩ける会場」を目指して会場設営は工夫した。行列は発生しなかったが、反省点は多々ある。詳細は完全版を参照されたい。降雨やゴミへの対応も直前の忙しい時期には無視できない作業量であった。

「大会会計指針」の 1 (大会開催校会計の支出目安)を参考に、当日業務を洗い出し、アルバイト必要人数を算定し、募集した。

4 月末までにほぼ必要人数を確保し、アルバイト説明会を大会前日の昼休みに開催し、全般的な注意のほか、業務別の要領書を交付した。

事前申込受付、当日受付、会場係、会場巡回係、飲み物係、総会担当、懇親会誘導担当、懇親会担当、後片付けなどの諸業務内容の設計についても完全版を参照されたい。アルバイト学生の総業務量は 278.75 人時となった。

託児所は会場内に臨時に設置することも考慮したが、安全を確保できる適当な部屋がないため断念し、外部の託児施設を紹介することにした。しかし、高く、遠く、利用しづかったのは間違いなく、利用者はなかった。

プレコンファレンスは「雇用システムの未来」というテーマで菅野和夫(明治大学)、稲上 毅(法政大学)の両氏(お二人とも東京大学名誉教授)に講演を依頼し、外部の関連団体にも参加を呼び掛け、また、宣伝のためポスターを作成し、活用した。平日夕刻にも関わらず多数の参加者を得て、盛況であった。

報告者のフルペーパーは、締め切りの 5 月 11 日までに 48 本中 23 本が、前日までに 16 本が到着し、9 本は当日の持ち込みとなった。

テーマ別分科会の報告者は締切後の提出や当日持ち込みが際だって多かった。共通論題非会員報告者のフルペーパーは、5 年前の幹事会決定にもかかわらず春季大会企画委員会の強い要請があったため、やむなく大会実行委員会で当たったが、前例にすべきではない。従来、共通論題フルペーパーを封筒に詰めて、受付で参加者に手渡すという慣行があったようだが、今回は事前準備作業と受付業務双方の節約のため、机上に配置されたものを参加者各自が適宜取って行く方式に変更した。

## 3. 大会当日および事後処理

収容数の少ない教室で立ち見が出たが、急遽、近隣の演習室から椅子を運び込んで対処した。今回は総会議題が多かったため、円滑に進むよう心掛けて用意したが、総会でパワーポイントが使えないという失態を演じた。

ゴミ処理、掲示物の撤去、原状復帰等の後片付けの作業は日曜日午前中から柔軟に進め、日曜夕方は予定より早く当日

業務を終了することができた。

大会翌日は、コンピューターなど借用備品類の返却、現金の整理、若干のゴミ処理を済ませ、以後、アルバイト謝金の計算・支払い明細の作成・支払金額の用意、受付記帳簿や懇親会当日現金受付記録と現金との照合、生協等への経費の支払い、大会継承物品(名札入れ、実行委員会印、その他文具・記録類)の整理・補充と次期開催校への送付、大会報告の作成、黒字処理方針の決定、その他もろもろの事後の処理に約一ヶ月半を要した。

## 4. 大会会計

大会開催校会計は当初、学会から繰り入れられる大会開催費 100 万円で、開催実務費用と会場使用料をまかなう均衡予算を立てた。決算では、補助金と広告掲載料のほか、懇親会売上も予算案より 20 万円ほどの増収があり、支出は概ね予算の範囲内で、開催実務費用と会場使用料の和は若干ではあるが予算(100 万円)を下回った。差し引きで、348,332 円の黒字となった。

「大会会計指針」では黒字処理は開催校に委ねられているため、検討を重ねた結果、謝金等の追加支出に 84,973 円、学会への寄附に 145,200 円(うち 25,200 円の現物を含む)を充て、残余の 118,189 円を東京大学社会政策研究基金に寄附することとした。

今回の大会の全体を振り返るなら、「大会会計指針」を目安として大会を準備し、開催することは可能であり、今後大幅な赤字が発生する危険性は低いと考えられる。

最後に、報告者、座長、参加者、幹事会および春季大会企画委員会など関係各位のさまざまなご協力とご理解に謝意を表す。実行委員会のいたらぬところについてはご寛恕を請うとともに、お気付きの点は、次回以降の開催校の参考にもなるので、是非率直にお知らせくださるようお願いする。

[小野塚知二]

## 追記

2004 年の幹事会で東大開催を決めた。別に 1987 年に社会政策学会が発足してから 110 年とか、1907 年に第 1 回大会を東大で開いてから 100 年、といった巡りあわせを重視したのではなかった。東大では長い間社会政策学会の大会が開かれていなかったのである。

前回開かれたのは 1975 年(第 50 回大会)であり、それから 30 年以上も経過している。今回の実行委員会のメンバーのなかには、大学院生として第 50 回大会の準備を行ったものが 2 名いる(仁田道夫さんと小生)。その時のことを想うと、まさに「少年老い易く」の感がある。

今回は、小野塚知二さん、石原俊時さんが獅子奮迅の働きをして下さり、小生のような老人には出番があまりなかった。両氏には深く感謝する。また、プレコンファレンスを快く引き受けてくださった仁田さん、中村圭介さんをはじめ多くの方々のご尽力に対しても感謝の気持ちを捧げたい。

[森 建資]

社会政策学会第 114 回大会開催校会計決算書

(単位:円)

	費目	予算	決算	差額(決算 - 予算)
収入	大会開催費	1,000,000	1,000,000	0
	補助金	0	87,500	87,500
	広告掲載料	0	91,000	91,000
	懇親会売上	675,000	878,500	203,500
	弁当売上	0	117,600	117,600
	合 計	1,675,000	2,174,600	499,600
支出	大会開催業務一部委託	511,000	519,778	8,778
	会場看板・生花代金	50,000	20,000	-30,000
	文具・消耗品・雑費・郵送費	50,000	53,650	3,650
	飲み物代金	35,600	37,121	1,521
	アルバイト謝金および弁当茶菓子代	275,000	268,419	-6,581
	会場使用料	78,400	87,500	9,100
	(以上開催実務費用 + 会場使用料)	1,000,000	986,468	-13,532
	懇親会開催費	675,000	715,000	40,000
	弁当代	0	124,800	124,800
	合 計	1,675,000	1,826,268	151,268
	黒字額	(収入 - 支出)	0	348,332

## 6 . 学会誌編集委員会からお願い

学会誌『社会政策』は、2008年5月の創刊号発行を目処に編集作業を開始しております。去る7月末日締め切りの第1回投稿には、全部で8本の研究論文ならびに研究ノートをお寄せいただきました。査読専門委員の第1次の委嘱も終え、すでに投稿論文の査読手続きに入っております。『社会政策』誌のさらに円滑な立ち上がりを期すために、学会員のみなさまのご協力をお願いします。

とくに、つぎのことにつき、お願いします。

1. 研究論文ならびに研究ノートの積極的な投稿をお待ちします。今後の投稿締め切りは、本年10月末、2008年1月

末、4月末、その後3ヶ月ごとに月末締め切りとなっております。詳しくは、執筆要領とともに学会ホームページをご覧ください。

2. 書評対象書籍の推薦をお願いします。自薦、他薦を問いません。また、会員の最新刊本を編集委員会宛てにご提供いただければ幸いです。

学会誌に関するお問い合わせ等は、

編集委員会事務局 o-koichi@tfu-mail.tfu.ac.jp

までお寄せください。編集委員会事務局住所は学会ホームページをご覧ください。

## 7 . メール転送担当者からお願い

9月11日より、メール転送の担当者が二村一夫会員から所道彦に交代いたしましたのでお知らせいたします。このシステムは、社会政策学会からのお知らせ、他学会、シンポジウム、研究会などの情報を会員にお届けするために設けられています。なお、前任者からのメールでもお知らせしましたが、下記の点についてご理解とご協力をお願いいたします。

転送メールの受け取りを希望されているにもかかわらず、メールが届いていない会員の方は担当者(所)にご連絡下さい。また、転送メールを必要とされない場合、迷惑とお感じになる場合も、ご面倒ですが、担当者にお知らせ下さい。(tokoro@life.osaka-cu.ac.jp)

現在、会員の方にメールを送信すると、約20通の不着メールが戻ってきます。個人で設定されたメールの転送先の割り当て容量の超過のため受け取れない、プロバイダーを変更したのに転送の設定が変更されていないなどのケースが

大部分です。学会に登録されているメールから、別のアドレスに転送設定されている方は、一度、ご自分のメールの設定状況等をご確認下さい。

添付ファイル付きのメールは転送しませんので、メール本文に原稿を作成の上、担当者にお送り下さい(添付ファイルがウイルス感染の原因となることが多いため、こうした原則を設けられています)。

転送用のメールは、必ずテキスト・メールで担当者にお送りください(htmlメールは、転送した際に本文が添付ファイルになる場合があります)。

機種依存文字(=郵便場号の記号、丸数字、(株)など)を全角1文字に作字したものは、文字化けする場合がありますので使用はお控え下さい。また、一行文字数があまりに長い場合、途中から文字化けを起こすおそれがあります

ので、一行半角 60 字～70 字程度で改行していただきますようお願いいたします。

なお、メールの転送作業は可能な限り迅速に行いたいと思

いますが、諸事情により数日かかる場合もございますのであらかじめご了承下さい。

メール転送担当 所 道彦

## 8. 幹事会報告

社会政策学会幹事会議事録(第9回)

- (1) 名 称: 社会政策学会 2006-2008 年 第 9 回 幹事会
- (2) 日 時: 2007 年 5 月 18 日 (金) 14:00～17:40
- (3) 場 所: 東京大学本郷キャンパス経済学研究科棟 12 階  
第 1 共同研究室
- (4) 出 席: 阿部 居神 岩田 遠藤 大沢 大前 小笠  
原 小野塚 木本 猿田 武川 玉井 所  
橋元 湯澤  
欠 席: 埋橋 小越 富田 都留 西村 藤澤 松丸  
宮本 室住 森

議 題

1. 新入会員の承認  
15 名の新入会員を承認した。
2. 前回議事録の確認  
第 8 回幹事会議事録を確認した。
3. 現勢報告  
代表幹事から、以下のとおり、会員の現勢報告があった。
  - ・ 2007 年 4 月 1 日現在の会員数
    - 一般会員 948 名
    - 院生会員 155 名
    - 名誉会員 29 名
    - 計 1132 名
  - ・ 2006 年度の入退会者数
    - 入会者 75 名
    - 退会者数 52 名
    - 差引 23 名増
4. 学会賞選考委員会報告  
玉井学会賞選考委員長から、選考経過についての説明があり、本年度は、学術賞は該当なし、奨励賞は、田中拓道会員の『貧困と共和国 社会的連帯の誕生』(人文書院、2006 年)と決定したとの報告と選考理由についての説明があった。
5. 名誉会員の推挙について  
武川代表幹事から、以下の 4 名の会員を名誉会員として推挙したい旨の提案があり、了承された。
  - 栗田 健: イギリス労使関係史研究で、業績を上げる。1976 - 78 に代表幹事。
  - 徳永重良: ドイツ労使関係史研究で、業績を上げる。ドイツ中心とした国際的な研究交流を推進。
  - 高橋彦博: 日本の社会運動史に多くの業績があることに加え、現在でも積極的に学会に参加され、報告されている。政治学と社会政策学会の接点を作った。
  - 板東 慧: 社団法人労働調査研究所所長として労働問題の実証的、実践的研究に長きにわたって取り組み、多くの成果を世に問われてきた。
6. 学会誌関連規程について

武川代表幹事から、社会政策学会誌編集規程及び社会政策学会誌編集委員会規程について、第 8 回幹事会で決定した案のうち、「資料改題」の語句を「史資料改題」と改めたうえで、総会に提出する幹事会案としたい旨の提案があり、了承された。また、パブリックコメント後に寄せられた会員からの意見に配慮して、以下の事項について、確認したい旨の提案が、取りまとめチームの小笠原幹事から提案され、了承された。

- (1) ジャーナルの表紙に、当該雑誌が「社会政策学会誌」であること、ならびに、誌名が『社会政策』であることの両方が標記されるようなデザインとする。
- (2) ジャーナルの編集開始に伴い、規程類に改善すべき点が明らかになったときは、順次、つぎの手続きにしたがって改訂ないし修正していくこととする。
  - 改善すべき点は幹事に付議された後、規程については直近の会員総会の決議を経て改訂し、また、規程以外の指針等については幹事会の決定を経て修正するものとする。なお、それ以外の報告書様式等については、編集委員会において改善していくものとする。規程類の問題点に関する会員からの意見表明は、ジャーナル「編集委員会」を窓口として適宜受け付けることとする。
  - ジャーナル「編集委員会」は、会員からの改訂・修正に係る意見が寄せられ、これについて審議した場合、および、「編集委員会」において改訂・修正が必要であると審議した場合には、直近の幹事会に対し報告し、議題として付議しなければならないものとする。
- (3) 編集規程の 5. にいう「研究ノート」には、研究上の問題提起、調査方法論の検討、調査報告などが含まれるものとする。
- (4) 投稿された原稿が編集規程に基づき査読対象とすべき原稿であるかどうか、あるいは、掲載対象とすべき原稿であるかどうかの判断は編集委員会において行うこととなるが、その判断と手続きに関するルールを新たに発足する編集委員会のもとで策定し、幹事会の承認を得るものとする。

7. 総会議事次第

武川代表幹事から、総会議事次第について提案があったが、今回は審議事項が多いが、学会誌関連に時間をかけた方がよいとの意見が出され、今回は委員会報告を行わないこととした。

8. 2007 年度予算・2006 年度決算について

小野塚幹事から、2006 年度決算書が森会計監査の監査を受けたことが報告され、了承された。また、小野塚幹事から、学会財政についての厳しい見通しが示され、2007 年度予算案は緊縮の方針に立って編成したとの報告があり、総会にかけるべき 2007 年度予算案が提案され、了承された。

9. 2006 年度活動報告・2007 年度活動方針について

武川代表幹事から、2006 年度活動報告案と 2007 年度活動方針案が示され、一部文言を修正のうえ了承された。

10. 会費規程改正案

武川代表幹事から、第 8 回幹事会で決定した会費規定改正案(海外に居住する外国人会員の特例措置)の条文が示され、了承された。

#### 11. ホームページの運営及びメールによる情報配信のありかたについて

所幹事から、ホームページ及びメール転送の担当者である二村会員にヒアリングをした旨の報告があり、これを踏まえた「ホームページ及びメール転送に関する現状と将来の体制」について報告があった。また、所幹事を責任者として、2008 年度からの後継体制についての検討を行っていくことが決まった。検討結果は逐次幹事会に報告するものとする。

#### 12. 学会賞のあり方について

玉井学会賞選考委員長から、学会賞のありかたについて、以下の点について検討中であるとの報告があった。(1) 学術賞の複数受賞を可能にする、(2) 奨励賞の対象を「若手会員」とする、(3) 優れた編著や啓蒙書等に対して新しく「優秀賞」をつくる、(4) 学会賞の対象から論文を除外する、などの点について検討中であることが報告され、意見交換した。(1) (4) については賛成意見が出されたが、(2) については規程上明記せず、規程の趣旨を尊重する方向で運用すべきとの意見が出された。(3) については、さらに新たな賞を設けるよりも、現行の賞の拡大解釈で対応できるのではないかとの意見が出された。これまでの意見、コメント等を集約して、次回以降の幹事会において、最終案を提起することになった。

#### 13. 選挙管理委員の選出

武川代表幹事から、選挙管理委員として、以下の 4 名に委嘱したい旨の提案があり、了承された。橋元秀一(関東・甲信越)、河野真(関西北陸・東海)、熊沢透(東北・北海道)、都留民子(九州・中国四国)。

#### 14. 120 回大会開催校について

武川代表幹事から、120 回大会を日本大学で開催したい旨の提案があり、了承された。これによって今後の開催予定は以下のとおりとなる。

- 115 回大会 2007 年秋 龍谷大学 10 月 13 日 - 14 日
- 116 回大会 2008 年春 國學院大学 5 月 24 日 - 25 日
- 117 回大会 2008 年秋 岩手大学 10 月 11 日 - 12 日
- 118 回大会 2009 年春 早稲田大学
- 119 回大会 2009 年秋 金城学院大学
- 120 回大会 2010 年春 日本大学

#### 15. 講座・現代社会政策の再構築(仮題)について

武川代表幹事から、明石書店から「講座・現代社会政策の再構築(仮題)」を企画・編集中であるとの連絡を受けたことが報告された。

#### 16. 2007 年度幹事会日程

武川代表幹事から、2007 年度幹事会日程について、早め決めておきたい旨の提案があり、調整の結果、以下の通り決まった。

- 12 回幹事会 7 月 8 日(日) 14 時～
- 13 回幹事会 9 月 9 日(日) 14 時～
- 14 回～16 回幹事会 大会開催期間中
- 17 回幹事会 1 月 27 日(日) 14 時～

#### 社会政策学会幹事会議事録(第 10 回)

- (1) 名称：社会政策学会 2006-2008 年期第 10 回幹事会

- (2) 日時：2007 年 5 月 19 日(土) 11:30～12:40

- (3) 場所：東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟第 12 演習室

- (4) 出席：阿部 岩田 埋橋 遠藤 小越 大沢 大前  
武川 所 富田 藤澤 松丸 宮本 森  
欠席：居神 小野塚 小笠原 木本 猿田 玉井  
都留 西村 橋元 室住 湯澤

#### 議 題

##### 1. 春季大会企画委員会報告

遠藤春季大会企画委員長から、来年度春季大会の共通論題については、労働を中心としたテーマを考慮中であるとの報告があった。また、開催校と企画委員会との間の仕事の分担について不分明なところもあり、この点についての規程整備を企画委員長として検討していきたいとの報告があった。

##### 2. 秋季大会企画委員会報告

武川代表幹事から、秋季大会企画委員長が作成した資料にもとづき、共通論題の進捗状況について報告があった。

##### 3. 国際交流委員会報告

埋橋国際交流委員長から、2007 年 10 月に東京で開催される EASP(East Asia Social Policy Network)の国際会議について、社会政策学会もサポーターとして協力したい旨の提案があった。EASP について紹介の後、宣伝協力やモラルサポートに限って、協力することが承認された。

##### 4. ニュースレター担当幹事報告

次号は 6 月に刊行予定であるとの報告があった。

##### 5. 115 回大会(秋季)開催校報告

大前幹事から、順調に開催準備が進んでいる旨報告があった。

#### 社会政策学会幹事会議事録(第 11 回)

- (1) 名称：社会政策学会 2006-2008 年期第 11 回幹事会

- (2) 日時：2007 年 5 月 20 日(日) 12:30～14:00

- (3) 場所：東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟第 12 演習室

- (4) 出席：阿部 埋橋 小笠原 小越 武川 所 富田 橋元 藤澤 湯澤  
欠席：居神 岩田 遠藤 大沢 大前 小野塚 木本 猿田 玉井 都留 西村 松丸 宮本 室住 森

#### 議 題

##### 1. 新入会員の承認

1 名の新入会員を承認した。

##### 2. 社会政策学会誌査読指針・社会政策学会誌投稿規程について

武川代表幹事から、5 月 19 日に開催された総会で社会政策学会誌編集規程及び社会政策学会誌編集委員会規程が決定されたことを受けて、社会政策学会誌査読指針及び社会政策学会誌投稿規程が提案され、可決された。

##### 3. 社会政策学会誌編集委員会委員について

武川代表幹事から、編集委員会委員長を担当する学会誌編集担当幹事として、小笠原幹事を選任したい旨の提案があ

り、了承された。また、小笠原浩一幹事からは、就任にあたって、(1) 幹事会の新ジャーナルへの全面支援をお願いしたい、(2) 編集委員会内の事務局体制について幹事会としての検討をお願いしたい旨の要請があり、了承された。

その他の編集委員については、武川代表幹事から、専門分野を考慮して、石井まこと、所道彦、中村圭介、平岡公一、湯澤直美、吉村臨兵の各会員をお願いしたい旨の提案があり、了承された。

#### 4. 新ジャーナルの出版社選定について

武川代表幹事から、新ジャーナルの出版社選定について、代表幹事が会計担当幹事及び編集委員長と相談しながら、次回幹事会までに基本方針を示す旨の提案があり、了承された。

#### 5. ホームページ等検討委員会の発足について

所幹事から、ホームページ及びメールによる情報配信の体制について検討するため、幹事を委員長とし、猪飼周平、垣田祐介、上村泰裕、熊沢透の各会員から成る委員会を発足したい旨の提案があり、了承された。

#### 6. 編集委員会報告

小笠原編集委員長から、現行学会誌の体制の下で掲載が決定されていた論文等をすべて 19 号に収録するため、19 号については増ページしたい旨の提案があり、了承された。また、秋季大会の書評分科会における書評の扱いをどうするかについての問題提起が出され、これについては新編集委員会が秋季大会企画委員会と相談しながら決めていくこととなった。

#### 7. 選挙管理委員会関係

武川代表幹事から、富田幹事を選挙管理委員として追加したい旨の提案があり、了承された。また、橋元幹事から、選挙管理委員の互選の結果、橋元幹事が選挙管理委員長として選出された旨の報告があった。

### 社会政策学会幹事会議事録(第 12 回)

- (1) 名 称：社会政策学会 2006-2008 年期第 12 回幹事会
- (2) 日 時：2007 年 7 月 8 日 14:00～18:30
- (3) 場 所：東京大学本郷キャンパス 法文一号館 115 室
- (4) 出 席：埋橋 遠藤 小笠原 小越 小野塚 猿田  
武川 玉井 西村 橋元 松丸 湯澤  
欠 席：阿部 居神 岩田 大沢 大前 木本 都留  
所 富田 藤沢 宮本 室住 森

#### 議 題

##### 1. 新入会員の承認

14 名の新入会員を承認した。

##### 2. 前回議事録の確認

第 9 回、第 10 回、第 11 回幹事会議事録をそれぞれ確認した。

##### 3. 会員業績目録の扱いについて

法政大学大原社会問題研究所より社会政策学会宛の「社会政策学会会員業績リストの取り扱いについて(申し入れ)」(2007 年 6 月 6 日付け)が紹介され、2006 年度分の業績一覧を『大原社会問題研究所雑誌』2007 年 9・10 月合併号に掲載するのを最後に、同誌への掲載を取りやめたいとの同研究所の意思が確認された。そのうえで、今後の会員業績目録の扱いについて、廃止する場合の得失、書籍情報のみへの限

定、自己入力型のウェブ上での公開などさまざまな点が検討されたが、結論にはいたらず、代替方法の費用、事務量、利用度などについても調査したうえで、次回引き続き検討することとなった。

#### 4. 学会誌の出版社選定について

代表幹事より示された選定方針(案)について議論したうえで、代表幹事・会計担当幹事・編集担当幹事の合議で選定作業を開始することを決定した。

#### 5. 社会政策関連学会協議会等について

遠藤幹事より、5 月 10 日に本学会の大沢真理、遠藤公嗣、武川正吾幹事の呼び掛けで、社会政策関連の諸学会による協議会を設立することについて、各学会の会員 11 名の参加を得て意見交換会が開催された旨報告された。協議会設立のための準備委員会を設置されることが賛同され、現在、各学会内部で準備委員会に参加する担当者の派遣について検討されている。今後は準備委員会が協議会の設立について検討していくことになるが、当面は年内に何らかの設立準備シンポジウムを開催する方向で、大沢幹事を責任者として準備が進められている。

また、小越洋之助幹事より、日本経済学会連合の平成 18 年度決算、および 2 学会の新規加盟審査について報告された。

#### 6. 秋季大会企画委員会報告

猿田幹事より配付資料にもとづいて、第 115 回大会(2007 年 10 月 13・14 日、龍谷大学)のプログラム編成案が示された。セッション数は自由論題 9、書評分科会 2、テーマ別分科会 5、合計では 16 となり、第 113 回大会と同数。なお、自由論題報告希望者のうち、再入会者については規約第 9 条にもとづき未納会費を払い込むことを報告許可の条件とする。

#### 7. 春季大会企画委員会報告

遠藤幹事より第 114 回大会(2007 年 5 月 19・20 日)について、各座長のメモを踏まえて概況が報告された。また、第 116 回大会(2008 年 5 月、國學院大学)については、「労働」に関するテーマで共通論題の企画作業を開始した旨報告された。

#### 8. 編集委員会報告

小笠原幹事より以下 3 点の報告があった。(1) 学会誌第 18 号の編集作業は完了しており、『経済発展と社会政策 - 東アジアにおける共通性と差異性 -』の書名で 2007 年 9 月に刊行予定。(2) 学会誌第 19 号の編集作業は進行中で、大会関係の原稿執筆も依頼済み。投稿論文については、現学会誌で受け付けた投稿論文等は新学会誌に継承しない方針を第 11 回幹事会で決定したため、現学会誌の最終号となる第 19 号は通常よりページ数を増す予定である。(3) 新学会誌『社会政策』の執筆要領を確定し、6 月 21 日付で学会ホームページに掲載した。学会誌編集規程、編集委員会規程、投稿規程も掲載済み。新学会誌は創刊から第 3 号までは並行して編集作業を進める方針で、各号の特集テーマ、秋季大会書評分科会の成果掲載、共通論題の内容紹介記事掲載などについて原案が示された。

#### 9. 国際交流委員会報告

埋橋幹事より、海外在住会員の会費特例については次回幹事会に提案する旨報告された。

#### 10. ニューズレター担当幹事報告

所幹事より事前に提出されていたメモにもとづいて、ニュー

ズレターの今後の発行予定、および学会ホームページ担当の交替・引継の予定が確認された。

#### 11. 選挙管理委員会報告

橋元幹事より本年秋に実施される役員（幹事・会計監査）選挙の日程を、前回とほぼ同様に9月5日公示、10月12日開票と決定した旨報告された。日程、選挙および推薦の方法については、ニューズレター第6号（6月15日付）と学会ホームページに掲載済み。

#### 12. 社会政策学会賞表彰規程改正案

玉井金五幹事より、第9回幹事会で決定した方針を踏まえて、学会賞表彰規程の改正案が提示された。審議の結果、以下の改正案を第115回大会時の臨時総会に諮ることとされた。

第2条で学術賞について「...会員1名に授与する」と授与数が限定されているのを改め、「...会員に授与する」に変更する。

第4条で「著書、論文またはそれに準ずるものとする」と規定されている審査対象を、著書だけに限定し、「論文またはそれに準ずるもの」を削除する。

付則に制定時期と、一部改正時期を付け加える。

「社会政策学会賞表彰規程」に関する細則1「奨励賞については、複数の受賞もありうるものとする」を、上記の改正との関係で全文削除し、以下細則番号を一つずつ繰り上げる。

同細則2「選考委員の指名は会員に公表する」を「選考委員の氏名は会員に公表する」に改める。

#### 13. 第114回大会報告

小野塚知二幹事より、同大会の開催校報告(完全版および簡略版)が示された。簡略版はニューズレターに掲載し、完全版は学会ホームページに掲載する。大会開催校会計は黒字決算となったため、学会に対して25,200円相当の現物(名札入れ)と120,000円の現金を寄附する旨報告された。

なお、遠藤幹事より大会企画委員会と大会実行委員会(開催校)それぞれの任務、役割分担、関係について明確化する必要があるとの提案がなされ、遠藤幹事と小野塚幹事で素案を用意することとされた。

#### 14. 第115回大会予算案

大前眞幹事より事前に提出されていた第115回大会の大会開催校会計収支計画について審議し、収支均衡の予算案であることを確認して、一部修正(当日運営関係のうち「講師謝礼・旅費0円」の費目・金額を削除)のうえ承認した。

#### 15. 第115回大会開催校報告

大前幹事より提出されていた「第115回大会実行委員会からのお知らせ」が紹介された。

なお、フルペーパーの作成・送付数について、テーマ別分科会報告は200部を100部に変更し、また、共通論題報告は秋季大会の場合は400部のままとすることを確認した。

#### 16. その他

次回幹事会は前回決定のとおり9月9日(日)午後2時から。東京大学本郷キャンパスが電気工事で停電の予定で、場所未定のため、場所は改めて案内する。

## 9. 承認された新入会員

9月9日承認分(13名)

氏名	所属名称	専門
山口 登	京都医師会看護専門学校	社会保障・社会福祉
宣 元錫	中央大学総合政策学部	その他
宮本みち子	放送大学教養学部	生活・家族
拾井 雅人	乙訓障害者事業協会	社会保障・社会福祉
張能美希子	千葉商科大学大学院政策研究科院生	その他
茶園 敏美		ジェンダー・女性
京極 高宣	国立社会保障・人口問題研究所	社会保障・社会福祉
阿部 敦	神戸女子大学文学部	社会保障・社会福祉
大森 正博	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	社会保障・社会福祉
黄 義銓	大分大学大学院経済学研究科院生	労使関係・労働経済
金子裕一郎	龍谷大学経済学部	労使関係・労働経済
金 秀映	高麗大学校文科大学社会学科	ジェンダー・女性
見澤 裕司	大阪市社会福祉協議会	社会保障・社会福祉